

# 編集後記

本会の世話人であった花田俊典氏が、二〇〇四年六月二日に急逝されました。

氏の呼びかけによってさまざま方がこの研究会に集い、問題をともに検討することができました。この場をお借りして氏が会発足の際に書かれた文章をご紹介いたします。

\* \* \*

## 原爆文学研究会の発足について

（一〇〇一）一、一五世話人 花田俊典  
戦後半世紀、「原爆」という「わたしたちの体験」はさまざまに「問題化」されきましたが、ご承知のとおり、いわゆる記憶の風化の問題、語り口の問題、世界的規模のCTBTに関わる問題、あるいは戦争と平和論の問題など、今日なお模索すべき課題は多くあるかと思われます。この会では、これを「文学」、あるいは「文学的」な問題として再考していきたいと考えています。

思えば戦後五十年、「原爆文学研究」と名のる雑誌は（わたしの知るかぎり）刊行されてはおりません。これはどういうことなのか。文学というジャンルは、情感を盛り込むことに適した表現形式として当事者（体験者）たちの有効な「記録」媒体として用いられてきましたが、同時にまた、文学はクリエイティブな言語運用の表現形式でもあります。後者の意味において、原爆「文学」は、きわめて今日的

な光景の創造の場といつていいでしよう。別の言い方をすると、文学の場における「原爆」の光景は、不斷の現在の産物といつていいかも知れません。

これらのことどもを、ゆるやかに意識しつつ、幅広い視野のもとに、お互いの問題意識を交換し、自由に忌憚なく対話する場として、この研究会を考えています。

\* \* \*

## 「原爆文学」の批評を通じていかにして現実的な力を持つ問いを提示できるのか、今後も念頭に置いて考え続けたい課題です。

この研究会につきましては、解散することすらはすかしいほど、まだ何もしていないという思いもあり、第一回研究会（七月三日）時の運営会議の結果、世話人を長野秀樹氏（長崎純心大学）にお引き受けいただき、事務局を石川巧研究室（九州大学）に変更して続行することが合意されました。

花田氏の追悼号を、という意見もありましたが、本会の取り組む「原爆文学」という問題の性質を鑑みて、本号は通常通りの形式で発行することとなりました。

## 定価 一一〇〇円(本体一四三円)

◇書店にない場合は「地方小出版流通センター扱い」とご指定の上、書店にご注文下さい。  
◇継続購読は、花書院「原爆文学研究係」にお申込み下さい。送料は無料となります。

何を申し上げても、ものたりなさが残りますが、原爆文学研究会という語らしいの場を用意して下さった花田俊典氏に感謝の意を表し、氏のご冥福を心からお祈り申し上げます。

(N)

原爆文学研究 3  
二〇〇四年八月三一日発行

編集 原爆文学研究会  
八〇八五〇

福岡市中央区六本松四一一一  
九州大学大学院比較社会文化研究院  
石川巧研究室 気付  
発行 (有)花書院  
八〇〇九三  
福岡市中央区白金二一九一六  
TEL 〇九二〇〇六七  
FAX 〇九二〇〇四四二